

# 研究の現場から

## 第二回 年次学術大会を開催

# 道徳の本質的課題と社会的課題に取り組む

道徳科学研究所 研究員  
年次学術大会 企画・運営担当

竹中 信介

### 多岐にわたる研究テーマを議論

今大会では、道徳の起源と進化、道徳と宗教の関係、「よき祖先」になることなど、倫理・道徳を本質的に理解しようとする研究が見られました。また、学校におけるいじめ問題や、「孤独・孤立」問題などの社会的課題、ケアと「伝統の原理」、廣池千九郎の思想と事績など研究テーマは多岐にわたりました。

### 道徳や徳に関する本質的な議論

道徳や徳という概念は、多くの人に共有されているものの、一旦説明を求められると、なかなか明確に述べるのは難しいものです。近年では、「道徳の起源と進化」の科学的研究が進展しており、今大会でも、その研究成果の一部が紹介されました。モラロジーの創建者である廣池千九郎（一八六六～一九三八）も『道徳科学の論文』におい

て、道徳の起源と進化について議論しており、「道徳とは何か」という問題はモラロジーの根幹に関わる重要なテーマといえるでしょう。

### 社会的課題についての議論

道徳科学では、さまざまな社会的課題にこたえるべく、実際に起きている問題を事例に挙げて研究を進めています。今大会では、学校における「いじめ」問題について、いじめの定義や事実関係の認識の相違など、構造的な理解をめざす報告がありました。

その他に、近年特に社会問題化している「孤独・孤立」問題が扱われ、各種の統計データに基づき、孤独や孤立を防ぐためには適度な距離感を持った人間関係の「つながり」が重要であることが確認されました。希薄すぎず、過剰でもない適度な距離感とはどのようなものなのか、引き続き議論が必要です。

今回の報告内容の詳細と残された課題については、令和五年二月十八日（土）、十九日（日）に本部（柏）で開催を予定している「道徳科学研究フォーラム」にて、参加者の皆様と共有し、議論したいと思えます。

【お問合せ先】道徳科学研究所 事務室  
電話 04-7173-3252  
Eメール rc@moralogy.jp



毎年九月に開催している道徳科学研究所（以下、道徳研）の年次学術大会は、研究員各自の専門から倫理・道徳の研究の深化・発展をめざす研究会です。道徳研所属のほぼ全員の研究員が発表し、議論しています。今年も、九月一日から三日にかけて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、合計二五名の研究員が研究成果を報告しました。